

基本施策評価シート

| |
|----------|
| 基本施策最終評価 |
| B |

基本施策通し番号 16

基本施策 人にやさしい道路環境の創出
 構成施策

| 施策番号 | 施策名 | 施策最終評価 |
|------|-------------|--------|
| 施策1 | 生活道路の管理と整備 | A |
| 施策2 | 橋の長寿命化 | A |
| 施策3 | 誰にもやさしい道路整備 | A |
| 施策4 | 自転車走行空間の整備 | B |

成果指標

| 指標 | 内容 | 令和2年度 目標 | 令和2年度末 実績 | 単位 | 令和2年度の成果の検証 |
|------------|------------------------------|-------------|--------------|----|--|
| 市道の改良率 | 市道の実延長に対する改良済みの延長の割合 | 83 | 83.3 | % | 4路線の整備推進により改良済延長が増加した。 |
| 橋梁補修数 | 長寿命化のための補修を行った橋の数 | 15 | 18 | 橋 | 3橋の補修工事を実施した。また、103橋の定期点検を実施し、橋梁の健全度を確認した。 |
| 歩道のバリアフリー率 | 歩道の総延長に対するバリアフリー工事を実施した延長の割合 | 41.9 | 42.4 | % | 令和2年度実績なし(令和元年度末で目標達成済) |

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

| | |
|-----|--|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 市道には老朽化などによる損傷がみられ、改修が必要な路面や橋なども多く、従来から市民の道路に関する要望が多い。また、バリアフリー化されていない歩道や、市民の安全通行が確保されていない路線も多い。さらに、自転車利用者が通行する際に、歩行者との接触や段差による事故の恐れがある。 |
| 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> 適切な市道の管理と整備を推進する必要がある。整備にあたってはユニバーサルデザインの考え方を取り入れることが求められている。また、自転車専用の通行空間の整備が求められている。 |

社会情勢・市民ニーズの変化

- 道路の改良や舗装の補修、道路側溝の改修などの要望は依然として多い。
- 令和元年5月に滋賀県大津市で歩道を通行中の園児が死傷するという痛ましい事故があった。これにより、通学路以外にも園外活動経路の安全対策の要望・関心度が高くなっている。

現在の「現状」と「課題」

| | |
|-----|---|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 集落内生活道路の改良要望は依然として多く、加えて老朽化施設の修繕及び改修費用が増加している。このことから、要望に対して直ちに対応できない箇所も多く存在する。 滋賀県大津市の事故を受け、大野市通学路交通安全プログラムに園児の園外活動経路も含め、通学路等安全推進会議において、情報共有、役割分担、合同点検を行い早期改善に努めている。 |
| 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> 従来の改良事業や補修事業に加え、施設の定期点検や長寿命化対策費用が新たに必要となり、維持管理経費の増加が見込まれることから、国の補助事業を活用した予算確保及び平準化が課題となっている。 高齢化社会の到来を受けて安全で快適な歩行空間の整備に加え、地域消費の拡大、観光客の増加、健康増進の観点から、車中心から人中心の道路への転換が求められている。また、歩道のバリアフリー率は依然として低く、継続した取り組みが必要である。 |

基本施策の「成果」

| | |
|-----|--|
| 成 果 | <ul style="list-style-type: none"> 市道の改良率は目標を上回る83.3%となった。 橋の長寿命化において、平成30年度までに1回目の定期点検を完了し、令和2年度末において目標以上の18橋の補修工事が完了した。また、令和元年度末に1橋の耐震補強工事を完了した。 歩道のバリアフリー率は、目標を上回る42.4%となった。 |
|-----|--|

改善点

- 今後も国等の補助事業を活用した予算確保に努め、計画的かつ効率的な維持管理を行い、財政負担の軽減・平準化を図る。